

アマ写真家

アマチュア写真家で八幡市在住の米田祐三さん(22)が、13日から、沖縄県で個展「ほくの旅日記 in おきなわ」を開く。自閉症で知的障害もあり、言葉で表現するのは苦手だが、独特の視点でとらえた写真は「癒やされる」と評判を呼んでいる。(後藤静華)



沖縄の日常を切り取った写真の展覧会を開く米田さん(八幡市で)

言葉苦手 作品で感情表現

沖縄で個展

八幡市 米田さん

米田さんは小学5年の頃、母・千鶴さん(55)の携帯電話のカメラで写真を撮り始めた。中学3年に入ってから、主に



那覇市内の土産物店で撮影したシーサーの置物の写真(米田さん提供)

カメラをぶら下げ、大好きな電車や車のほか、通学路の風景、街で出会った人や動物を、1週間に100枚以上のペリスで写真に収めた。千鶴さんは、「視力が弱いので、とにかく興味のある物を、ファインダーを通して一生懸命見ようとしたのかも知れない」と推し量る。

米田さんの写真で人気が高いのは、空と動物の作品だ。空一面に広がる飛行機雲、雲間にぼんやりと浮かぶ夕日、首をかき上げてカメラを見る散歩中の犬。何気ない一瞬を切り取った写真は「ほっこりする」「暖かみがある」と評判を呼び、養護学校に通っていた5年前に初個展を開催。京都府などでもこれまで10回以上の作品展を開き、障害者の芸術展「京都とっておきの芸術祭」(府など主催)で度々、知事賞などを受賞した。

昨年2月、米田さんは初めて両親の同伴なしで、沖縄ツアーに参加した。現地で撮りためた300枚から50枚を選

フルーツ、夕焼け、笑顔…旅で見つけた日常

び、八幡市で開いた個展で披露したところ、旅行を企画した那覇市の一般社団法人の職員らが作品を気に入り、沖縄での個展開催が決まった。

個展では、那覇市内の果物屋に並ぶ色鮮やかなフルーツや夕焼けでオレンジ色に染まる海、現地の人の笑顔などが沖縄の日常をとらえた作品を展示。13日から4月29日まで、那覇市や名護市など県内4か所で開催。

3年前からのファンで、展覧会の運営をサポートする八幡市のアルバイト西村美里さん(24)は「会話はうまくできないけど、好きなこと、興味のあることが写真からよく伝わってくる。写真を通して話しているみたい」。千鶴さんは「障害のせいで感情を理解してもらえないことが多いが、写真から何か感じとってもらえたら」と話している。

問い合わせは一般社団法人 Kukururu(0998-8080998)。